

# 第 54 回数理社会学会大会 (JAMS54) プログラム

日時：2012 年 8 月 30 日 (木) ～31 日 (金)

会場：関東学院大学 KGU 関内メディアセンター

神奈川県横浜市中区太田町 2-23 横浜メディア・ビジネスセンター8F

大会委員長：籠谷和弘 (関東学院大学)

## 1 参加費、懇親会費 (シンポジウムのみ参加は無料)

大会参加費	一般 (会員)	4,000 円	学生・院生 (会員)	1,000 円
	一般 (非会員)	5,000 円	学生・院生 (非会員)	1,500 円
懇親会費	一般	5,000 円	学生・院生	1,500 円

## 2 主なスケジュール

	時間	803 室	801 室	その他
8 月 29 日	14:00～16:30			セミナー
8 月 30 日	10:30～11:45	第 1 部会 社会的不平等 1	第 2 部会 集団	
	11:55～12:45	第 3 部会 家族	第 4 部会 社会的不平等 2	
	13:45～14:55			萌芽的セッション
	15:00～15:55	学会賞受賞講演		
	16:00～17:00	総会		
	18:00～20:00			懇親会
8 月 31 日	10:30～11:45	第 5 部会 方法	第 6 部会 社会意識	
	13:00～15:00	シンポ 社会階層と健康		

## 3 主な会場 (懇親会以外すべて関内メディアセンター)

- ・受付・会員控室・抜き刷り交換コーナー：ラウンジ
- ・セミナー：801 室，懇親会：菜香新館 (横浜市中区山下町 192, TEL : 045-664-3155)
- ・口頭報告：803 室と 801 室。ポスター報告 (萌芽的セッション)：805 室と 806 室。

## 4 口頭報告者へのお願い (自由報告)

- ・部会開始 5 分前に集合して、司会者と打ち合わせをしてください。報告 15 分，討論 10 分です。
- ・会場設置パソコンを利用できます (ウインドウズ 7, オフィス 2010)。持参パソコンの場合，ウインドウズノートパソコンが使用可能です。その他の機器使用を希望する場合はご連絡ください。
- ・ファイルは当日持参してください (USB メモリ利用可)。
- ・配布資料は，報告直前に配布してください。残部は持ち帰るか，抜き刷りコーナーに置いてください。
- ・(司会者の方々へ) 部会開始 5 分前に集合ください。報告 12 分で 1 鈴，15 分 2 鈴，25 分 3 鈴を鳴らします。

## 5 ポスター報告者へのお願い (萌芽的セッション報告)

- ・ポスターは大会開会から大会閉会までの間掲示します。閉会後は各自で持ち帰ってください。
- ・最大 A0 判 (横 841mm, 縦 H1189mm) のスペースが利用可能。報告ごとにポスター位置が指定されています。
- ・部会開始 5 分前に集合してください。

## 6 問い合わせ先

研究事務局 〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1  
成蹊大学文学部 小林盾  
E-mail : jams.research@gmail.com, TEL : 0422-37-3663

大会事務局 〒250-0042 神奈川県小田原市荻窪 1162-2  
関東学院大学法学部 籠谷和弘  
E-mail : kkagoya@kanto-gakuin.ac.jp, TEL : 0467-57-8752

## 8月29日(水)

---

- 13:00~15:00 研究活動委員会 806室  
13:00~16:00 選挙管理委員会 808室  
14:00~16:30 ワンステップアップ・セミナー 803室 講師 大浦宏邦(帝京大)  
「ゲーム理論の基礎と応用」  
15:00~17:00 編集委員会 805室  
17:30~21:00 理事会 横浜情報文化センター小会議室

## 8月30日(木)

---

10:00 開場・受付開始 ラウンジ

10:25 開会挨拶 803室 大会委員長 籠谷和弘(関東学院大)

10:30~11:45 自由報告

- 【第1部会】社会的不平等1 803室** 司会 今田高俊(東京工業大)
- 1 中高年所得格差の構造と要因 盛山和夫(関西学院大)
  - 2 現代日本の中高年層における社会関係資本の格差と社会的孤立の発生メカニズムに関する計量分析 瀧川裕貴(東北大)
  - 3 階層帰属意識と社会経済的地位の関連はなぜ強まったのか——媒介分析を用いた階層帰属意識の形成メカニズムの検討 神林博史(東北学院大)

- 【第2部会】集団 801室** 司会 遠藤薫(学習院大)
- 1 マツリが活性化するメカニズムの分析——地区外への開放性の影響 堀内史朗(芝浦工業大)
  - 2 間接互惠性による排他的な集団の形成 ○大石晃史(東京大)  
島田尚(東京大)  
伊藤伸泰(東京大)
  - 3 どのような類が友を呼び、どのような友が類となる、のか?——ネットワーク実査による実証 桜井芳生(鹿児島大)

\*\*\*\*\*コーヒーブレイク\*\*\*\*\*

11:55~12:45 自由報告

- 【第3部会】家族 803室** 司会 元治恵子(明星大)
- 1 家族内世代間支援における互酬的な関係について——中高年の生活実態調査データから 常松淳(東京大)
  - 2 親子はどのように相互に影響を与えるか——縦断的一卵性双生児差異法による純粋な因果効果の検討 ○山形伸二(大学入試センター)  
高橋雄介(京都大)  
尾崎幸謙(統計数理研究所)  
藤澤啓子(慶應義塾大)  
野中浩一(和光大)  
安藤寿康(慶應義塾大)

**【第4部会】社会的不平等2 801室**

**司会 木村邦博（東北大）**

- 1 教育機会の質的格差の同時分析——多項トランジションモデルの展開 濱本真一（東北大）  
2 中高年期の不平等——資産格差に注目して 白波瀬佐和子（東京大）

\*\*\*\*\* 昼食\*\*\*\*\*

**13:45~14:55 萌芽的セッション（ポスター報告） 805室と806室**

- 1 少数派は大都市で「同土」を見つけるか——音楽の趣味を用いた下位文化理論の検証 ○石黒格（日本女子大）  
竹村幸祐（京都大）  
2 （報告中止）  
3 東日本大震災における援助行動の計量分析 大林真也（東北大）  
4 「95年の第1問社会のビッグバン」への懷疑——コギトに社会の「発生」を問うことは可能か？ 大山智徳（九州大）  
5 転職による収入の変化の異質性 小川和孝（東京大）  
6 ゲーム理論再考——協力ゲームと非協力ゲームは異なる出自のゲーム理論である 河野敬雄  
7 小室直樹と数理社会学 志田基与師（横浜国立大）  
8 社会ネットワーク分析における有向グラフの距離行列の算出方法についての提案 杉原桂太（南山大）  
9 職場内の評判共有と協力行動 ○鈴木貴久（総合研究大学院大）  
小林哲郎（国立情報学研）  
10 学歴ホモガミーの研究——未婚カップルと既婚カップルの比較分析 茂木暁（東京大）  
11 権力者の選好はそのまま権力構造に反映されるか？ 山崎晋  
12 位相空間を用いたブランドとコンセプト分析——ファストファッションに対する20代30代女性の消費者知識 ○渡辺光一（関東学院大）  
佐藤志乃（関東学院大）

\*\*\*\*\* コーヒーブレイク\*\*\*\*\*

**15:00~15:55 第9回数理社会学会賞 授賞式 受賞講演 803室**

**15:55~16:00 世界社会学会議2014年横浜大会の案内 803室**  
**組織委員会副委員長 白波瀬佐和子（東京大）**

**16:00~17:00 総会 803室**

**18:00~20:00 懇親会 菜香新館**

8月31日(金)

10:00 開場

10:30~11:45 自由報告

【第5部会】方法 803室

司会 中澤渉(大阪大)

1 分冊型の調査票に関する統計学的評価

○尾崎幸謙(統計数理研)

前田忠彦(統計数理研)

2 回収率99%のための仕掛け——2011年フィリピン自治体調査を事例として

○小林盾(成蹊大)

西村謙一(大阪大)

菊地端夫(明治大)

3 世代間移動表に対する空間自己回帰モデルを用いた統計的モデリングの提案

平尾一朗(関西大)

【第6部会】社会意識 801室

司会 金澤悠介(立教大)

1 保守主義と認知能力——遺伝要因の媒介効果と調整効果の検討

○敷島千鶴(慶應義塾大)

山形伸二(大学入試センター)

平石界(安田女子大)

安藤寿康(慶應義塾大)

2 日本の中老年層における社会保障政策支持に関する計量分析

羅一等(東京大)

3 道徳的信頼と用心深さ——多母集団同時分析を用いた一般的信頼の下位側面の検証

○大崎裕子(東京工業大)

前田忠彦(統計数理研)

\*\*\*\*\*昼食\*\*\*\*\*

13:00~15:00 シンポジウム「社会階層と健康——社会学と他領域との連携の可能性を探る」 803室

オーガナイザー 神林博史(東北学院大)

司会 片瀬一男(東北学院大)

1 趣旨説明

片瀬一男(東北学院大)

2 社会階層と健康——疫学のアプローチ

近藤尚己(東京大)

3 経済学は健康にどうアプローチしてきたか

浦川邦夫(九州大)

4 健康の階層差研究における社会関係資本の位置づけ

杉澤秀博(桜美林大)

15:00 閉会挨拶 803室

大会委員長 籠谷和弘(関東学院大)

(備考)

1 ○印は登壇者を示します。E は英語による報告です。The E symbol stands for English presentations.

2 「抜き刷り交換コーナー」を設けます。論文、報告書、マニュアル、自作ソフトなどを置けます。事前に「交換用抜き刷り」と表記して大会事務局宛に送付できます。

3 ワンステップアップ・セミナー参加には申し込みが必要です。無料、定員25名(先着順)。詳細はセミナー案内をご覧ください。定員に余裕がある場合は当日参加受付もいたします。

(変更履歴)

2012年7月26日 プログラム公開

2012年9月1日 プログラム確定。萌芽的セッションの報告2を報告中止へと変更しました。